

著書出版の報告・学会大会発表報告・学会大会座談会参加報告

短期大学部家政科 村田 あが

①『住生活論』（共著）出版の報告

書名：『住生活論』

発行：2000年4月20日

出版社：株式会社光生館

著者：沖田富美子，大家亮子，稲田深智子，定行まり子，村田あが

本書は住生活について包括的に論じた教科書であり，筆者は第2章住生活の歴史（pp.15-38）を担当した．第1節「ねぐら」から始まる住宅史，第2節西欧の住宅の変遷，第3節日本の住宅の変遷に分け，限られた紙数ではあったが，人々の生活の器としての住まいの歴史について概説した．

従来の住居史を「住生活の歴史」という視点で捉え直す，という任を与えられたわけであるが，筆者の力不足によりそれを全うしたとは言い難い．しかし，人々の日常生活の場が時代や地域によってどのように捉えられ，変遷してきたのか，そしてそれは如何なる時代の要請によるものなのかに着目してまとめるよう努力した．諸賢のご叱正を仰ぎたい．

②日本家政学会第52回大会研究発表報告

日時：2000年6月4日（日）於文化女子大学

題名：江戸後期の家相文献にみる建築儀礼について

家相文献を中心とする江戸時代の家相説に関する研究の一環として，家相文献『方鑑精義大成』の建築儀礼に関する項目の分析結果について発表した．同書は畿内の家相流派の始祖，松浦東鷄の記した家相文献であり，享和2年自序，同4年刊行の版本である．

内容の分析を通して以下の点を明らかにした．①同じ著者による『匠家故実録』が大工棟梁向けの建築儀礼の方法をまとめた文献であるのに対し，本書は普請の施主を対象に書かれた住まい造りの実際的な教則本である．②建築儀礼に関しては，「地造」，「鋤初め」，「鉋初め」の各項目について，主に暦との関連性に言及している．③施主の生年による「塞がり」と普請における建築儀礼の関係が重要視されている．

③日本家政学会第52回大会若手の会座談会（話題提供者）参加の報告

日時：2000年6月4日（日）於文化女子大学

テーマ：「私のライフコース—研究者として歩んできた道」

話題提供者：柳沢幸江・御船美智子・鋤柄佐千子・村田あが

標記の座談会に参加し、研究の方法や進め方、研究環境の確保の重要性などについて発表し、討論した。大学教員としての教育と研究の時間配分の難しさや、女性研究者としての仕事、研究、生活のバランスのさせ方など、他の話題提供者の方々の発表や、その後の討論の中で、自らが学ぶことの多い有意義な座談会であった。